

「国民参加の森林づくり」シンポジウム ～ 北海道の「木育」わたしたちの「木育」これからの「木育」～

国土のおよそ4分の1を占める広大な北海道。
開拓から150年を過ぎた北海道の歴史には、いつも、
営みを支えた森、木に囲まれた温もりの暮らしがありました。

平成16年、その北海道で「木育」が生まれました。
「木育」は、子どもをはじめとするすべての人が、
「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みです。
それは、子どものころから木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との
関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことであり、北海道ではこの15年間、
様々な「つながり」を大切にしながら歩みを進めてきました。

そこで、継続して森を守り育てていくことの大切さを伝える「全国育樹祭」を1年後
に控えた今、これまでの経験にふれながら、木育をさらに未来へつないでいくための
ヒントを探っていきます。



日時 令和元年10月12日 土

13:00～16:00(受付12:00～)

会場 北海道大学
高等教育推進機構 大講堂
(札幌市北区北17条西8丁目)

定員 250名(先着順)

参加費 無料 申込締切 9月13日 金

※参加お申込み方法は、裏面をご覧ください。

記念講演

森は生きている。
そしてその森で僕は生きている。

鈴井 貴之 氏
(クリエイティブオフィスキュー)



事例発表 (発表者は裏面でご紹介)

- I 「音」をキーワードにした木育の推進
- II 木工作ワークショップで伝える
木の良さ、手作りの良さ
- III 苫東・和みの森が、様々な人の人生を変えた

パネルディスカッション

わたしを変えた「木育」
社会を変える「木育」

- コーディネーター
宮本 英樹 氏 (北海道観光まちづくりセンター代表社員、
大沼流山牧場 代表取締役CEO)
- パネリスト
煙山 泰子 氏 (KEM工房主宰、木育ファミリー顧問)
上田 融 氏 (NPOいふり自然学校代表理事、
苫東・和みの森運営協議会副会長)
鈴木 道和 氏 (北海道水産林務部森林環境局長
兼 全国育樹祭推進室長)

「全国育樹祭」ってなに？
くわしくはコチラ ▶



第44回全国育樹祭の概要

- 開催時期 令和2年秋期
- 主催 北海道、(公社)国土緑化推進機構
- 式典行事 約5,000人
(北海きたえーる/札幌市)
- お手入れ 約 200人
行事 (苫東・和みの森/苫小牧市)

記念講演



森は生きている。
そしてその森で僕は生きている。

タレント・構成作家

鈴木 貴之

(クリエイティブオフィスキュー)

1962年 北海道赤平市生まれ
HTB(テレビ朝日系列)「水曜どうでしょう」で企画・出演に携わり、大泉 洋氏とともに、日本全国のみならず、世界を飛び回る。
2001年より映画監督としても活動を開始し、現在までに4作のメガホンを執る。
2015年、テレビ東京系列「ドラマ24『不都合な便利屋』」で自身初の連続ドラマ脚本・監督を務める他、作家、ラジオやCM、舞台と幅広く活躍。

2011年、出身地の赤平市に購入した山林にアトリエ兼自宅を建て、自らチェーンソーを持ち、森を整備したり、冬には薪ストーブで暖をとるなど、「森の生活」を始める。
生活の大半は赤平の森で過ごし、絶滅危惧種のクマゲラやエゾモモンガに癒される暮らしの様子など、大自然に囲まれた「森の生活」の魅力を発信している。

空知(そらち)に対し、深い愛着と地域活性化への強い熱意を持ち、2018年に空知の魅力を道内外で発信する「そらち応援大使」に就任。

司会者



橋本 登代子

フリーアナウンサー。札幌テレビ放送(株)退社後、フリー活動に入りボイスオブサッポロ設立。現在、7名の所属アナウンサーをかかえる。
北海道内各局の番組に出演の他、シンポジウムのコーディネーター、司会、対談、講演会、話し方教室やマナーセミナーなど幅広く活躍している。

申込方法・お問い合わせ先 締切 9/13金

参加を希望される方は、下記の専用応募フォームもしくは、必要事項をご記載の上、郵送・FAX・メールによりお申込みください。
後日、お申込み完了の連絡を差し上げます。

必要事項

- ①代表者及び参加予定者全員のご氏名・年齢
- ②代表者ご住所 ③代表者お電話番号
- ④代表者メールアドレス
- ⑤その他、ご配慮を要する事項 等

専用応募フォーム

第44回全国育樹祭推進室HP



第44回全国育樹祭北海道実行委員会事務局
(北海道水産林務部森林環境局 全国育樹祭推進室)

所在地 〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目
TEL 011-206-6563 / FAX 011-232-1296
Mail suirin.ikujusai@pref.hokkaido.lg.jp

主催 北海道、(公社)国土緑化推進機構、(株)朝日新聞社、(公財)森林文化協会

後援 林野庁、美しい森林づくり全国推進会議

事例発表

事例1 「音」をキーワードにした木育の推進

～アクセスフルデザイン・スローストイの開発と公開～

北海道旭川農業高等学校
森林科学科 森林資源活用班 3年生

事例2 木工作ワークショップで伝える

木の良さ、手作りの良さ

〔学校法人 美専学園 北海道芸術デザイン専門学校
環境デザイン学科 クラフトデザイン専攻 2年生〕

事例3 苫東・和みの森が、様々な人の人生を変えた

〔苫東・和みの森運営協議会副会長
上田 融〕

パネルディスカッション

わたしを変えた「木育」 社会を変える「木育」

コーディネーター



宮本 英樹

北海道観光まちづくりセンター代表社員
大沼流山牧場 代表取締役CEO

1969年生まれ。

林業の町・置戸町出身。実家は林業と農業を営む。
地方新聞社を経て、北海道自然学校NEOS(後のNPO法人ねおす)の設立に参加。北海道の自然や一次産業を使った人材育成を通じた地域づくりを行うべく、全道各地に自然学校を設立。また、エコツアーの企画・運営を行い、交流、関係人口の増加に寄与する。

平成16年度協働型政策検討システム推進事業のメンバーとして「木育」を提案(木育推進プロジェクト)。平成21年度には、木育プログラム等検討会議委員長として、「木育マイスター(北海道が認定する、木育を普及させる専門家)」の育成カリキュラムなどの作成に携わり、その後は、木育マイスター育成事業の企画運営を行っている。
自らが、企業がゴルフ場開発に失敗した放置林120haを管理し、森林の空間利用、里山の利用、木材生産を上手に掛け合わせた「森林業」の経営にも挑戦している。

パネリスト

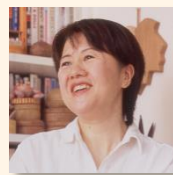
煙山 泰子

KEM工房主宰
木育ファミリー顧問

木工デザイナー。1955年 札幌市生まれ。
北海道教育大学特設美術科(木材工芸)卒業後、1979年にKEM工房を開設。

「子ども達とかがって子どもだった人への贈りもの」をコンセプトに、北海道の木と子どもにこだわって創作してきた。KEMブランドの遊具や生活用品はオホーツクの津別町で製作され、北海道生まれのクラフトとして全国で長く親しまれている。図書館、幼稚園などの空間デザインのほか、平成16年度に「木育推進プロジェクト」に参画してからは、木育体感プログラムの開発や木育授業など、積極的な木育活動に取り組んでいる。

著書に「木育の本」(北海道新聞社・共著)など。
■KEM工房HP:<http://www.kem.hokkaido.jp>



上田 融

NPOいぶり自然学校代表理事
苫東・和みの森運営協議会副会長

1973年 岐阜県生まれ。

大東文化大学文学部教育学科卒。大学生の時に、キャンプリーダーという活動に出会い、少年時代に近所の裏山や長良川で培った遊びの技術が人の役に立つということに衝撃を受け、以後自然体験活動をライフワークとするようになる。

小学校教諭、社会教育主事を経て、登別市を拠点に、NPO法人いぶり自然学校を立ち上げる。現在は、同法人の拠点を苫小牧市に移し活動中。

また、第58回全国植樹祭の開催後に設立された「苫東・和みの森運営協議会」の事務局を担い、「森のコミュニティセンター」というコンセプトのもと、木育の理念や森のようちえんの技法を駆使し、おおよそ森に縁のなかったセクターを森に呼び込む仕組みづくりに挑戦している。

鈴木 道和

北海道水産林務部森林環境局長
兼 全国育樹祭推進室長

1961年 恵庭市生まれ。

1984年に北海道庁入庁後、上川・十勝といった、道内における主要な木材産産地域で林産担当を経験し、製材工場やチップ工場等業界の活性化に従事。また、総合政策部においては、重点政策の策定を担当したほか、トドマツやカラマツの利用促進や、木質バイオマスの普及などに取り組む。

前職の渡島総合振興局東部森林室長在任時には、民間企業と「木育に関するタイアップ協定」を締結し、商業施設に設置された木育広場を活用して、様々なイベントを開催。北海道の木育推進の方向性として、「民間との協働による持続可能な木育活動」の必要性を強く感じ、現職においても、企業の森づくりをはじめ、各種コラボを積極的に取り入れている。

